

サウンドデザイン演習2020
女子美術大学・遠隔授業

動画06

【講義2】 古代ギリシャ時代において
音楽とはいかなるものであったか？
～ プラトン、ピタゴラスを手掛かりとして～

講義担当： 石井 拓洋
takuyo.ishii (a) gmail.com

2020

講義2 で話すこと

1. 音楽の起源
2. 古代ギリシャの文化 - 神々との関わりのなかで
3. プラトンの〈ムーシケー〉としての音楽
4. ピタゴラスの〈天体のハルモニア〉としての音楽
5. 古代ギリシャの楽器と世界最古の楽譜
6. 一度忘れられた古代ギリシャの知恵と文化

1. 音楽の起源

神話にさぐる音楽の起源

1. 音楽の起源

神話にさぐる起源

- 「その弟はユバルといい、
 豎琴や**笛**を奏でる者すべての先祖となった」

～ 旧約聖書 創世記 第4章 21節 より

- 創世記（前500年頃に編纂）によると、前 3000年頃の人らしい。
- 「ノアの箱舟」 （前2800年頃）よりも前の人らしい。
- 「出エジプト」 （前1200年頃）よりも前の人らしい。
- アダムとエバの系譜で8代あとの人らしい。
- **紀元前の古くから、豎琴や笛で、音を楽しむ文化があったらしい。**

1. 音楽の起源

旋律の誕生

- 言語起源説：言語の自然な発語にともなう抑揚
- 感情起源説：感情的な叫び声

→これらが「旋律」へと発展した、との説が有力

- クルト・ザックス *Curt Sachs* 米・民族音楽学者による説

[片桐ら 1996: 8]

2.古代ギリシャの文化 - 神々との関わりの中で (前700年頃～前30年頃)

“Music” の語源

2.古代ギリシャの文化 - 神々との関わりの中で (前700年頃～前30年頃)

“Music” の語源

- music (英) ← musique (古フランス語) ← musica (羅) ← mousike (古ギリシヤ)
『スタンダード英語語源辞典』大修館書店 p.333
- 〈ムーシケー〉 mousike (古典ギリシヤ語) = 「ムーサに関わりのあるもの」
- 〈ムーサ〉 mousa (古典ギリシヤ語) ギリシヤ神話の9人の女神。学芸の女神。
- 彼女らは ギリシヤの神アポロンと共に 〈芸術や学問〉を司る。
- 「音楽」・「舞踊」・「詩」・「演劇」を統合した創作物を指す。

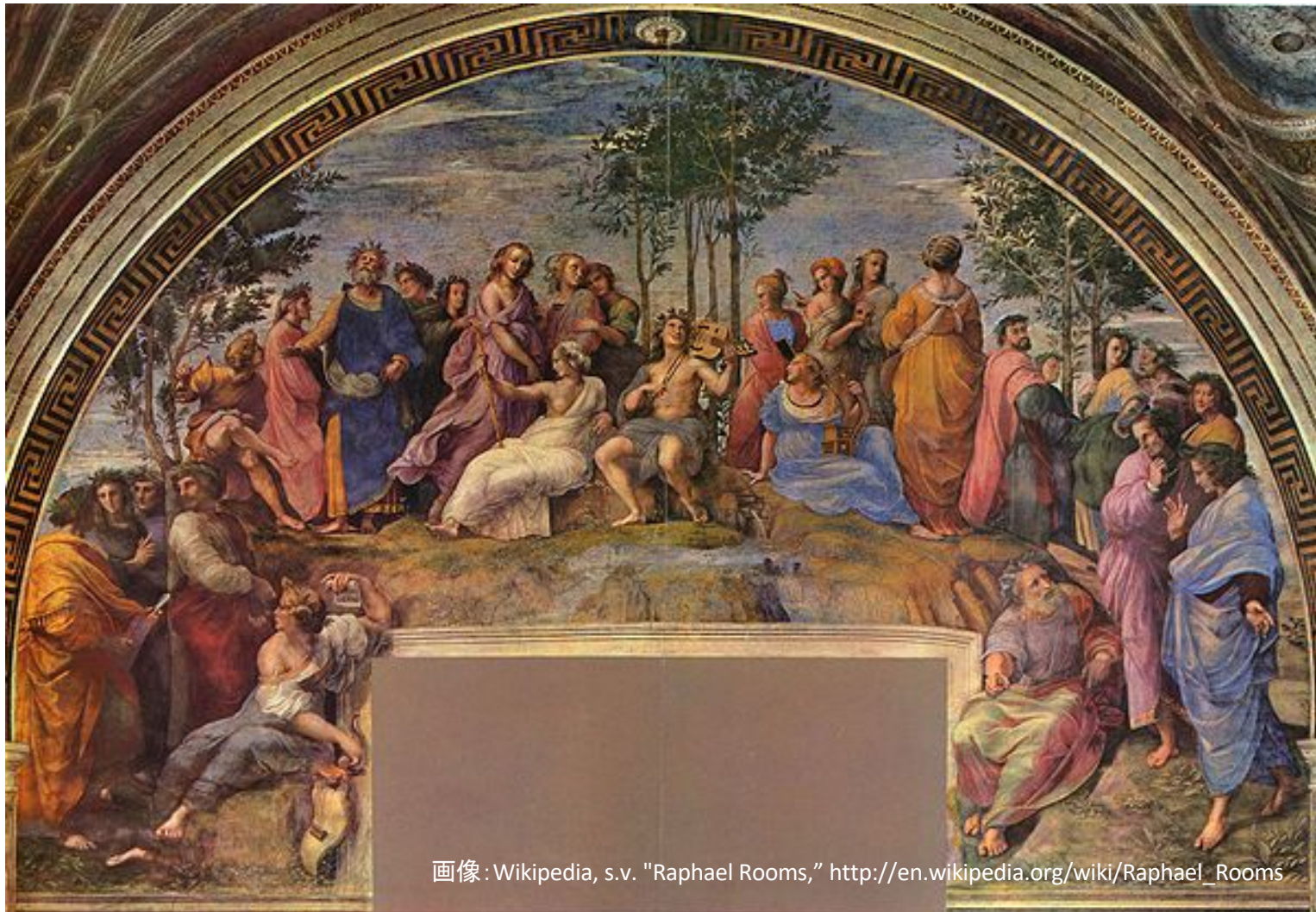
今道友信 『美について』 73頁。



画像: Wikipedia, s.v. "Raphael Rooms," http://en.wikipedia.org/wiki/Raphael_Rooms

バチカン宮殿内のバチカン美術館 「署名の間」の北壁と西壁に所蔵されるラファエロのフレスコ画
「パルナッソス山」 (1501, 左, 北壁) と 「アテナイの学堂」 (1509, 右, 西壁)

2.古代ギリシャの文化 - 神々との関わりのなかで (前700年頃～前30年頃)



画像: Wikipedia, s.v. "Raphael Rooms," http://en.wikipedia.org/wiki/Raphael_Rooms

ラファエロ・サンティ 「パルナッソス山」 (1501) ヴァチカン宮殿 (=サン・ピエトロ大聖堂に隣接するローマ教皇の住居)
Raffaello Sanzio "The Parnassus" (1501) The Apostolic Palace @Vatican City

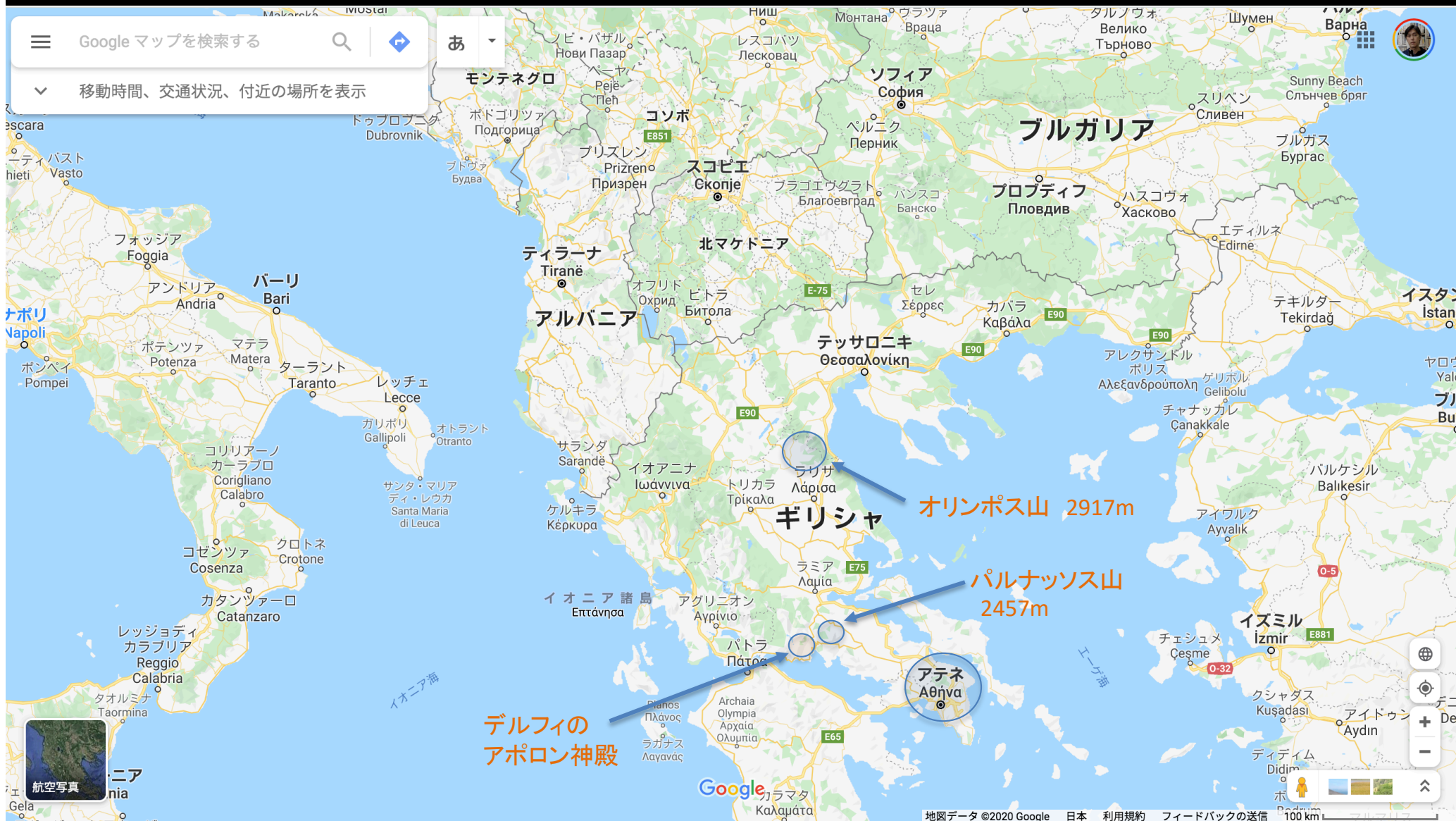


画像: Wikipedia, s.v. "Raphael Rooms," http://en.wikipedia.org/wiki/Raphael_Rooms

アポローン apollo : ギリシャ神話の神でオリュンポス十二神の一人。詩、音楽、演劇などの芸術を司る神。また、羊飼いの守護神にして太陽神でもある。父は宇宙を司る神でギリシャ神話の主神「ゼウス」。

ムーサ mousa : 芸術家に靈感（インスピレーション）を与える9人の女神たち。それぞれに以下の芸術分野を司っているという。

9人とは、カリオペ（叙事詩）、クレイオ（歴史）、メルポネペ（悲劇）、タレイア（喜劇）、エウテルペ（抒情詩）、エラト（独唱歌・恋愛詩）、テルプシコラ（合唱・舞踏）、ウラニア（天文、占星）、ポリュヒュムニア（神をたたえる讃歌・物語）。



2.古代ギリシャの文化 - 神々との関わりの中で (前700年頃～前30年頃)

神々との関わりによってうまれた文化

- そもそも古代ギリシャの文化は、神々と人との関係でうまれたもの。
- 〈オリンポス12神〉 最高神ゼウス、学芸の神アポロン、海神ポセイドン、、
- 人々と神との密接な生活の様子的好例 = プラトン『ソクラテスの弁明』
パルナッソス山、アポロン神殿の〈デルポイの神託〉。〈無知の知〉。

2.古代ギリシャの文化 - 神々との関わりの中で (前700年頃～前30年頃)

映像：DVD 『失われた文明 4.ギリシア黄金の時代』 PCBP-50244、
(株)ポニーキャニオン (発売元)、1995年発売。



3. プラトンの〈ムーシケー〉としての音楽

いかにして人は〈ムーシケー〉を作りえるか

3. プラトンの〈ムーシケー〉としての音楽

いかにして人は〈ムーシケー〉を作りえるか

「叙事詩の作者たちで、すぐれているほどの人たちはすべて、技術によってではなく、（※ムーサの女神から）神気を吹きこまれ、神がかりにかかることによって、その美しい詩の一切を語っているのであり、その事情は、叙情詩人たちにしても、そのすぐれた人たちにあっては同じことなのだ。」

プラトン「イオン」『プラトン全集10』森進一訳、岩波書店、2005年、p.128頁（533E）。

3. プラトンの〈ムーシケー〉としての音楽

いかにして人は〈ムーシケー〉を作りえるか

「彼は、神気を吹きこまれ、吾を忘れた状態になり、もはや彼の中に知性の存在しなくなったときにはじめて、詩をつくることができるのであって、それ以前は、不可能なのだ。」

プラトン「イオン」『プラトン全集10』森進一訳、岩波書店、2005年、p.129頁（534B）。

3. プラトンの〈ムーシケー〉としての音楽

プラトンの思う優れた〈ムーシケー〉とは

「イオン」に読める、プラトンにとっての
優れた〈ムーシケー〉(音楽)とその意義は？

3. プラトンの〈ムーシケー〉としての音楽

プラトンの思う優れた〈ムーシケー〉とは

「イオン」に読める、プラトンにとっての
優れた〈ムーシケー〉(音楽)とその意義は？

- ・ 人間の技術や知性ではなく、神的領域との接触による創作物
- ・ ゆえに、神が作った〈イデア〉(真善美の本質)の一端を、人知を超えて〈ミメーシス〉(模倣)しうるもの。
- ・ さらにそれゆえ、人知を超えた真善美にふれうる契機として価値をもつもの。

3. プラトンの〈ムーシケー〉としての音楽

ムーシケーとしての「ギリシャ悲劇」

3. プラトンの〈ムーシケー〉としての音楽

ムーシケーとしての「ギリシャ悲劇」

- 「詩・音楽・舞踊」の理想的な融合 → 「総合芸術」
- 起源は、陶酔の中、酒神ディオニソスを讃える詩吟や輪舞
- 前5 C. ギリシャの都市アテネで上演
- 仮面をつけた俳優 と 合唱隊（コロス・Choros）
- 上演の舞台のことを「オルケストラ」という
- 代表作 『オイディプス王』（ソポクレス作）など
- 西洋音楽史上の転機で常に藝術の理想型として参照される

3. プラトンの〈ムーシケー〉としての音楽



「エピダウロス」のテアτροン

画像：http://www.greecebytaxi.com/minibus_full.html

3. プラトンの〈ムーシケー〉としての音楽



映像： DVD 「オイディプス王」 ソポクレス原作(前427頃), 蜷川幸雄演出, ギリシャ公演 (2004発売)、
発売元：角川エンターテインメント※ 日本の趣を活かしてに演出されたものと考えられる。 約3分間。

4. ピタゴラスの〈天体のハルモニア〉としての音楽

〈天体のハルモニア〉 宇宙の調和

ピタゴラスの〈天体のハルモニア〉としての音楽

〈天体のハルモニア〉 宇宙の調和

- ・ ムーシケーとは異なる、古代ギリシャのもうひとつの音楽の捉え方
- ・ ピタゴラス（前582-前496） - 「万物の根源は数」
- ・ 音楽 = 「宇宙の秩序を示し、調和を象徴するもの」
- ・ 音楽は数（数字）が原因となるものであり、数が適切である時、自然（宇宙）や人間にとって調和をもたらすものと認識された
- ・ 数が協和音を作り出すことを唱える（音の調和は数で表現できる）。
（オクターブ「2:1」、完全5度「3:2」、完全4度「4:3」）
- ・ 音楽の協和音を、宇宙の形成原理までに適応
→ ピタゴラスによる「天体のハルモニア」

5. 古代ギリシャの楽器と世界最古の楽譜

代表的な 2 つの楽器

5. 古代ギリシャの楽器と世界最古の楽譜

Aulos 「アウロス」 笛（二本管）



画像： <http://www.mlahanas.de/Greeks/Music.htm>

「アウロス (aulos) は 木材、動物の骨、金属などからつくられた、オーボエに似た管楽器で、デュオニューソス (※) の楽器ともいわれる。ふつう二本のアウロスをつないだものが用いられた」

～アリストテレース 『詩学』 松本仁助ら訳、岩波文庫、第1章訳注より、113頁。

※ デュオニューソス：ギリシャ神話の神の一人。葡萄酒と演劇の神。

5. 古代ギリシャの楽器と世界最古の楽譜

kithara 「キタラ」 豎琴



画像：
<http://ancientolympics.arts.kuleuven.be/eng/tc015en.html>

※ Guitar 「ギター」の語源

「キタラー (kithara) はギリシアの代表的な豎琴で、アポローン (※) の楽器ともいわれる。弦の数は五、七、十一、十二と次第に増加した」

「演劇ではアウロスとキタラーの両方が用いられたが、アウロスの音楽が人々を興奮させる働きがあるのにたいし、キタラーの音楽は感情をしずめる働きがあり、より高貴なものともみなされた」

～ アリストテレス 『詩学』 松本仁助ら訳、岩波文庫、第1章訳注より、113-114頁。

※ アポローン：ギリシャ神話の神でオリュンポス十二神の一人。詩、音楽、演劇などの芸術を司る神。また、羊飼いの守護神にして太陽神でもある。父は宇宙を司る神でギリシャ神話の主神「ゼウス」。

5. 古代ギリシャの楽器と世界最古の楽譜

今日、古代ギリシャで
実際に奏されていた
当時の音楽を
聞くことは出来ないのか？

5. 古代ギリシャの楽器と世界最古の楽譜

「セイキロスの墓碑銘」

- 世界最古の楽譜 「セイキロスの墓碑銘（ぼひめい）」
- 墓石に「歌詞」と「旋律」が刻まれているものが発掘
- 1882年頃、トルコで鉄道工事中に発見されたという
- 紀元前 1 0 0 年頃に確かに存在した音楽 （人類最古の音楽）

HÜRRİYET Daily News, "Aydın seeks return of old composition" (January 27, 2012), accessed : June 14, 2020.
<https://www.hurriyetdailynews.com/aydin-seeks-return-of-old-composition-12408>

5. 古代ギリシャの楽器と世界最古の楽譜



古代ギリシャの音楽が記された墓石
「セイキロスの墓碑銘」 (B.C.100年頃)

1882年頃、トルコで発掘

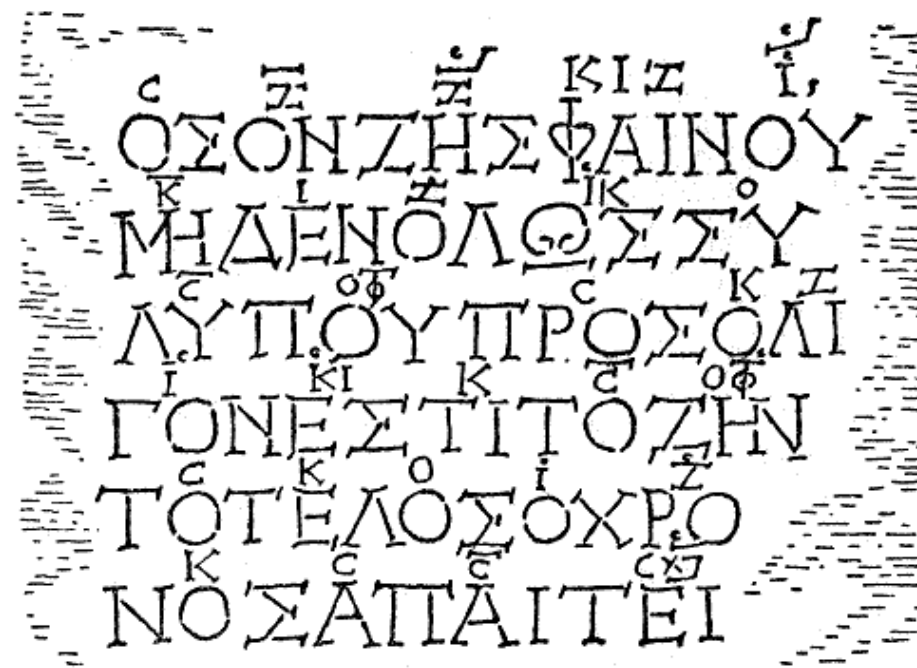


Abb. 15/16. Kopenhagen Inv. Nr. 14897 (= Nr. 18)

5. 古代ギリシャの楽器と世界最古の楽譜

「生きている間は輝いていてください
思い悩んだり決してしないでください
人生はほんの束の間ですから
そして時間は奪っていくものですから」



試聴： 《セイキロスの墓碑銘》 （紀元前100年頃に実在した音楽）

CD: 「Musique de la Grece Antique」 より 「11. Epitaphe De Seikilos 」

6. 一度忘れられた古代ギリシャの知恵と文化 (400年頃～)

ヨーロッパから一度「忘れさられた」ギリシャ文化

6. 一度忘れられた古代ギリシャの知恵と文化 (400年頃～)

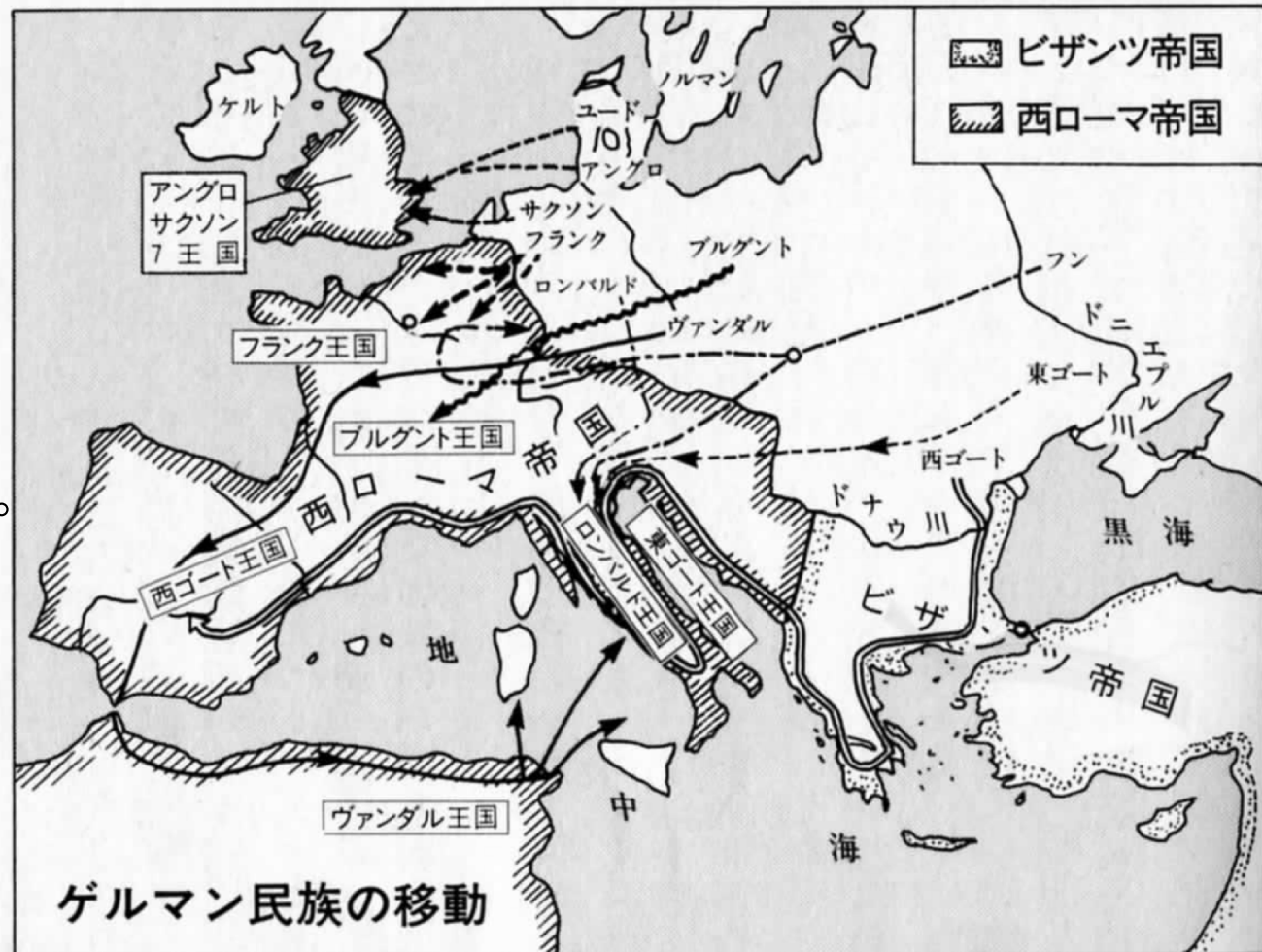
4C頃
ゲルマン民族の大移動



その後、彼らが
フランク王国を興し
現在の西欧の礎となる。



しかし、
彼らゲルマン民族には
古代ギリシャの知恵が
受け継がれることは
なかった。



図： 水村光男 『この一冊で世界の歴史がわかる』 三笠書房、1996年、67頁。

6.一度忘れられた古代ギリシャの知恵と文化

ヨーロッパから一度「忘れさられた」ギリシャ文化

つまり、4世紀頃からの約1,000年間、ゲルマン人たちによる
西欧は、ギリシャ文化の存在を知らなかった。

「12世紀までのヨーロッパ人たちは、
ギリシャ・ローマについては、
ほとんど何もしらなかった」

[村上 2004:38]

※ 「十二世紀ルネサンス」 : 14世紀という通説に先んじて、実は 12世紀頃の西欧における アラビア文化との接触こそが、その後の「ルネサンス」を可能にしたと強調する学説。ここではこの学説に拠った。

以上

さらなる知識のために

【単行本】

- アリストテレス『詩学』・ホラーティウス『詩論』 岩波文庫-青604-9。
- プラトン『国家(下)』 岩波文庫-青601-8。
- プラトン「イオン」森進一訳、『プラトン全集10』岩波書店、1975年。
- 今道友信『美について』講談社現代新書、1973年。
- 今道友信『美について考えるために』日美学園、2011年。
- 岡田暁生『西洋音楽史』中公新書、2005年。
- 片桐功ら『はじめての音楽史』音楽之友社、1996年。
- 皆川達夫『中世・ルネサンスの音楽』講談社現代新書、1977年。
- 村上陽一郎『やりなおし教養講座』NTT出版、2004年。
- ドナルド・H・ヴァン・エス『西洋音楽史』新時代社、1970=1986年。
- 小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版会、2009年。
- 伊東俊太郎『十二世紀ルネサンス』講談社学術文庫、2006年。
- 青山昌文『美学・芸術学研究』放送大学教育振興会、2013年。
- 椎名亮輔『音楽を考える人のための基本文献34』アルテスパブリッシング、2017年。

さらなる知識のために

【論文】

- 今道友信「美学の源流としてのプラトン」、『美学史研究叢書』第1輯、東京大学文学部美学芸術学研究室、1970年、pp.5-38。
- 中澤務「プラトンはなぜ詩人を批判したか(1)」、『北大文学研究科紀要』第105巻、北海道大学文学研究科、2001年、pp.1-19。